

3 律令国家の成立とひろしま ～備後国府と安芸国分寺～

原始・古代

中世

近世

近代

現代

～ 1000 1100 1200 1300 1400 1500 1600 1700 1800 1900 2000 (年)

1 備後国や安芸国はどのような様子 of 国だったのでしょうか？

律令国家の仕組みが整えられていく中で、各地域は「国」に区分され、現在の広島県にあたる地域は、備後国と安芸国に分けられていました。

備後国は、7世紀の終わり頃に吉備国を三つに分けてその西端をあて、安芸国は、734(天平6)年に西の周防国との境を大竹川(現在の小瀬川)に定めてつくられました。

当時の備後国や安芸国の様子は、『日本書紀』などの文献から読み取ることができます。地方制度の仕組みは、国・郡・里(里は後に郷に変更)の三段階に分けられました。奈良時代の初め頃に、備後国は14郡、安芸国は8郡に区分されており、都まで様々な税を運んでいたことなどが分かります。

右の図は、現在の広島県に当たる地域にあった「郡」です。安芸郡や世羅郡など今でも使われている郡名があります。また、同じように「駅家」「船木」「高屋」「緑井」などの里(郷)名も残っています。また、県内のこの頃の代表的な遺跡として、備後国府跡や安芸国分寺跡などがあります。

	備後国	安芸国
郡	14 郡	8 郡
郷	65 郷	62 郷
人口	約 7 万 2900 人	約 6 万 5600 人
調(税)	白絹・鉄・塩など	綾・白絹・塩など
都まで	11 日	14 日

備後国や安芸国の様子



備後国と安芸国におかれた郡



備後国府や安芸国分寺は、どのような役割をになっていたのでしょうか？

2 備後国府はどのような役割をになっていたのでしょうか？

律令国家では、各地域を「国」として分けると同時に、それを治める仕組みも変えました。それまでは地方の有力豪族を国造に任命していましたが、これを改め、都から国司を派遣して治めることにしたのです。派遣された国司が政治を行う役所があった場所を国府といいます。

備後国府は、「府中」という地名から、長い間、現在の府中市が有力な候補地でしたが、1980年代から始まった発掘調査で、市街地の北部に広がっていたと考えられるようになり、その様子も明らかになりつつあります。その理由としては、次のようなことがあげられます。

- ① 古代の役所に多い細長い建物跡が見つかったこと。
- ② 同じく、倉庫と推定される建物跡が見つかったこと。
- ③ 建物やそれを区画する溝・柵などが東西－南北方向に計画的につくられていること。
- ④ 須恵器製の硯が多く出土していること。
- ⑤ 儀式で使ったと考えられる土器が数多く出土していること。
- ⑥ 都周辺で生産された緑釉陶器や中国から輸入された磁器などが出土していること。



円面硯



ガラス玉が入った奈良三彩小壺



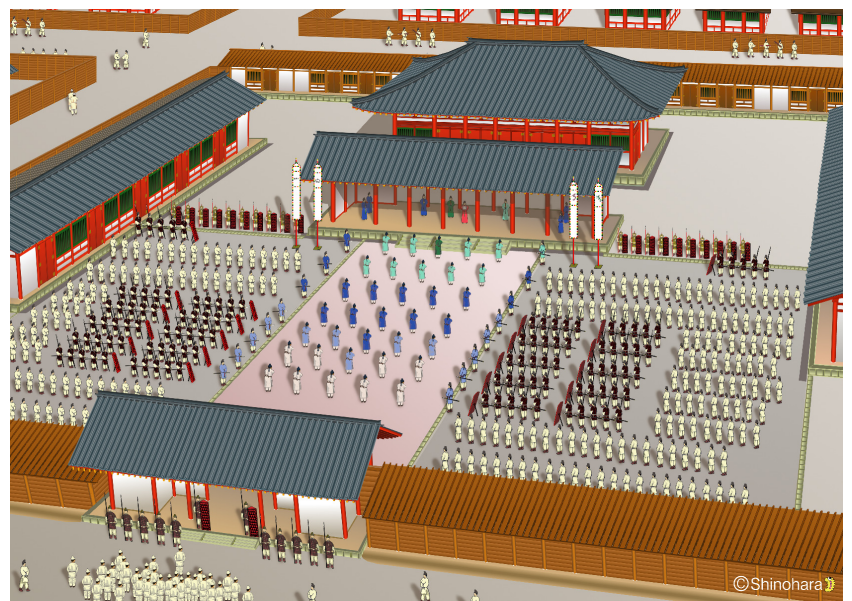
役人が使用した銅製の私印

備後国府跡の出土品（府中市教育委員会蔵）

国府で行われた仕事は、行政・税務・司法(裁判)・警察・軍事などすべてにわたっていました。行った仕事の内容は細かく中央政府に報告する義務があったので、たくさんの報告書が次々と都に送られました。

奈良時代の都があった平城京跡などからは、数多くの木簡が見つかります。紙が貴重だったこの時代、その代わりや荷札などに木簡が使われ、用が済んだものは刀子(小刀)で表面を薄く削ることで、繰り返し使われました。

平城京跡から出土した奈良時代初期の木簡の中に、「備後国葦田郡葦田里／氷高親王宮春税五斗」と記された荷札があります。



国府の様子(想像図)

(下野国府朝賀之儀 作画:篠原祐一)

これは、葦田里(現在の福山市北部から府中市南部)が氷高親王(後の元正天皇)の封戸(私有地)の一つであったことを示しており、この地域が天皇家と関係が強かったことがうかがえます。

3 安芸国分寺はどのような役割をになっていたのでしょうか？

741(天平13)年、聖武天皇により国分寺建立の詔が出され、757(天平宝字元)年頃までには、各国の国分寺と国分尼寺で法会(法要)ができるようになりました。備後国分寺は福山市神辺町、安芸国分寺は東広島市西条町にあり、発掘調査によって当時の様子も明らかになってきています。

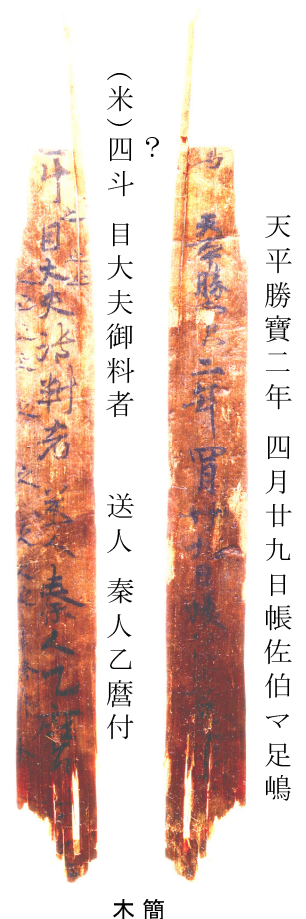
安芸国分寺は、西条盆地北端の緩やかな傾斜地にあります。発掘調査によって多量の木簡や墨書土器(墨で文字が書かれた土器)が出土しました。このことから、750(天平勝宝2)年には、仏像を納める金堂(本堂)などお寺の主要な建物が建ち、僧侶が住んで法会を営んでいたことが考えられるようになりました。

これらの資料は、奈良時代の安芸国分寺の様子を明らかにする極めて貴重なものです。出土した木簡の一枚には、「(米)四斗をお送りします。目(国司の一人)大夫(様)の分です。発送者(または持参者)は秦人乙磨です。天平勝宝二年四月二十九日に帳(郡司の一人)佐伯部足嶋がこれを書きました」と書かれています。法会に参列する国司のために送られた米の送り状と推定されるものです。

この他にも、「佐伯郡米五斗」(佐伯郡から送られた米の荷札)、「山方郡六口佐良」(山県郡から送られた佐良(皿)の荷札)や安芸郡、高宮郡、沙田郡、賀茂郡内など法会を開催するために、安芸国の各地から様々な品物が安芸国分寺に送られていたことが分かります。

また、墨書土器には、「安居」(夏季の修行)や「齋会」(正月の法会)、さらに僧侶の名前や建物の名前を書いたものがあります。

これらのことから、聖武天皇の鎮護国家の思想に基づき、安芸国においても様々な仏教行事が行われていたことが分かります。



(米)四斗 目大夫御料者 送人 秦人乙磨付

天平勝宝二年 四月廿九日帳佐伯マ足嶋



土器に書かれた文字「安居」



土器に書かれた文字「齋会」

安芸国分寺跡の出土品(東広島市教育委員会蔵)

備後国府や安芸国分寺の役割について、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！



【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

○備後国分寺についても調べてみよう！

- ・備後国分寺は、どこにあったのでしょうか？
- ・備後国分寺跡の発掘調査では、どのようなことが分かったのでしょうか？

○身近な地域の律令制にかかわることを調べてみよう！

- ・身近な地域にある奈良時代や平安時代の寺や役所の跡を調べてみましょう！
- ・身近な地域の地名はいつ頃から呼ばれているのでしょうか？
- ・県内に残る「里(郷)」名には、どんなものがあるのでしょうか？

「広島県遺跡地図」(P9)や地名辞典などを使って調べてみるといいよ！



◇府中市歴史民俗資料館

住所 府中市土生町 882-2 TEL: 0847-43-4646 HP

※縄文～古墳時代、備後国府を中心に奈良・平安時代の遺物が展示されています。

◇広島県立歴史民俗資料館・広島県立みよし風土記の丘

住所: 三次市小田幸町 122 TEL: 0824-66-2881 HP

◇広島県立歴史博物館

住所: 福山市西町2-4-1 TEL: 084-931-2513 HP

【もっと知りたい！郷土の歴史】

古墳から寺院へ

てらまちはいしあと みたにでら
～寺町廃寺跡と三谷寺(三次市)～

三次にはたくさん古墳があったけど、今度は寺院が造られていくんだね！



6世紀中頃に百済から伝えられたとされる仏教は、都や各地の豪族たちによって受け入れられ、7世紀後半頃になると豪族たちはそれまでの古墳に替わり、権威を示すものとして寺院を建立するようになりました。

こうした寺院の一つに、三次市にある寺町廃寺跡があります。この寺跡は、平安時代に書かれた仏教説話集「日本霊異記」に登場する「三谷寺」ではないかと考えられています。この説話集には、三谷寺は備後国三谷郡の大領(郡司)の祖先が白村江の戦の後、百済の僧を招いて建立した寺院であると書かれています。

日本で寺院が建てられるようになった時代は、ちょうど中央集権国家がつくられていく時期にあたり、豪族たちは、中央政府の命令に従って地域を治める地方官(郡司)に任命されるようになりました。日本霊異記に書いてある「三谷郡の大領(郡司)の祖先(=かつての地方豪族)が三谷寺を建てた」という内容は、まさにこうした歴史を物語っています。



寺町廃寺がらん模型
(広島県立歴史博物館蔵)